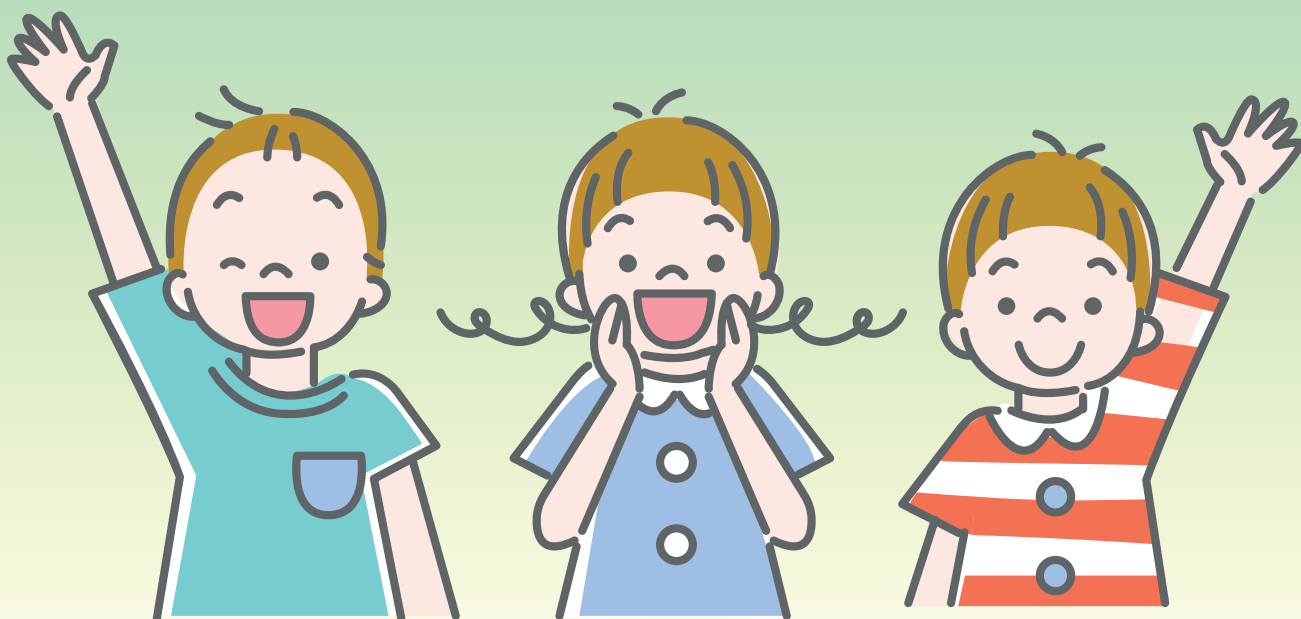


子どもゆめ基金 ガイド2022

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ



採択情報
満載!!

●こんな使い方がある!!
助成活動事例を紹介

How To
●子どもゆめ基金
申請までの流れ

子どもの体験活動・読書活動への助成を行っています



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

目次

「子どもゆめ基金」について ……第2表紙

「子どもゆめ基金」の概要 …… 1

子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ
 -申請までの流れ- …… 3

子どもゆめ基金ガイドの活用方法
 -申請のワンポイントアドバイス- …… 4

子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介 …… 5

持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた活動を
 支援しています …… 6

令和3年度助成活動事例

○子供の体験活動

【自然体験】

2021にじっこキャンプ
 実施団体/Nijicco 新潟にじっこキャンプの会 …… 8

有田・伊万里地区アウトドア塾
 実施団体/有田・伊万里地区スカウト協議会 …… 10

【科学体験】

子ども科学教室～ドライアイスマジック～
 実施団体/村山地区天文・科学ラボ …… 12

【交流体験】

親子で学ぶおもてなし「和の作法」伝統文化総合体験
 実施団体/金沢市音楽文化協会 …… 14

パラリンピック競技の体験をしてみようーポッチャの体験と車いす体験ー
 実施団体/特定非営利活動法人ホワイテベル …… 16

【社会奉仕】

伊勢湾 ECO デイキャンプ2021
 実施団体/特定非営利活動法人 四日市ウミガメ保存会 …… 18

美ッザニア in あいち
 実施団体/愛知県美容業生活衛生同業組合 …… 20

防災体験活動 子ども防災まち歩き in 日和山
 実施団体/特定非営利活動法人 放課後こどもクラブ Bremen …… 22

○子供の読書活動

【読書活動】

絵本専門士・朗読指導者のたのしいおはなし会
 実施団体/絵本専門士ユニット Peek-a-boo …… 24

○教材開発・普及活動

考えよう、災害時のトイレ …… 26

子供向け教材開発・普及活動への申請を
 お考えの方へ …… 27

普及啓発事業の事例

日中韓子ども童話交流事業 …… 28

ミクロネシア諸島自然体験交流事業 …… 29

「体験の風をおこそう」運動とは …… 30

申請・採択状況 …… 32

子どもゆめ基金へのご協力を (ご寄附のお願い)
 2021年度にご寄附をいただいた皆様 …… 裏表紙

「子どもゆめ基金」について

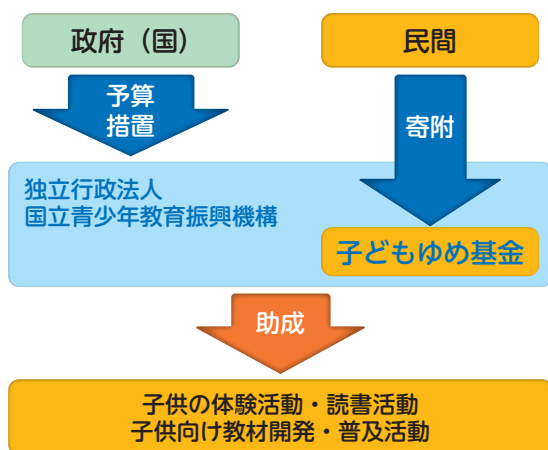
「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負荷がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。(平成25年度中教審答申より)

体験活動に関する調査(国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」)では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身についており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を

担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。



「子どもゆめ基金」の概要

●助成金の交付

●助成の対象となる活動

子供を対象とする体験活動や読書活動

子供の体験活動

- ・キャンプや自然観察などの自然体験活動
- ・科学実験教室などの科学体験活動
- ・異年齢や異世代、地域間等の交流を目的とした活動
- ・清掃活動等の社会奉仕体験活動
- ・地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動

子供の読書活動

- ・読み聞かせ会、読書会活動

子供を対象とする体験活動や読書活動を支援する活動

- ・フォーラムの開催、指導者養成

子供向け教材開発・普及活動

- ・インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

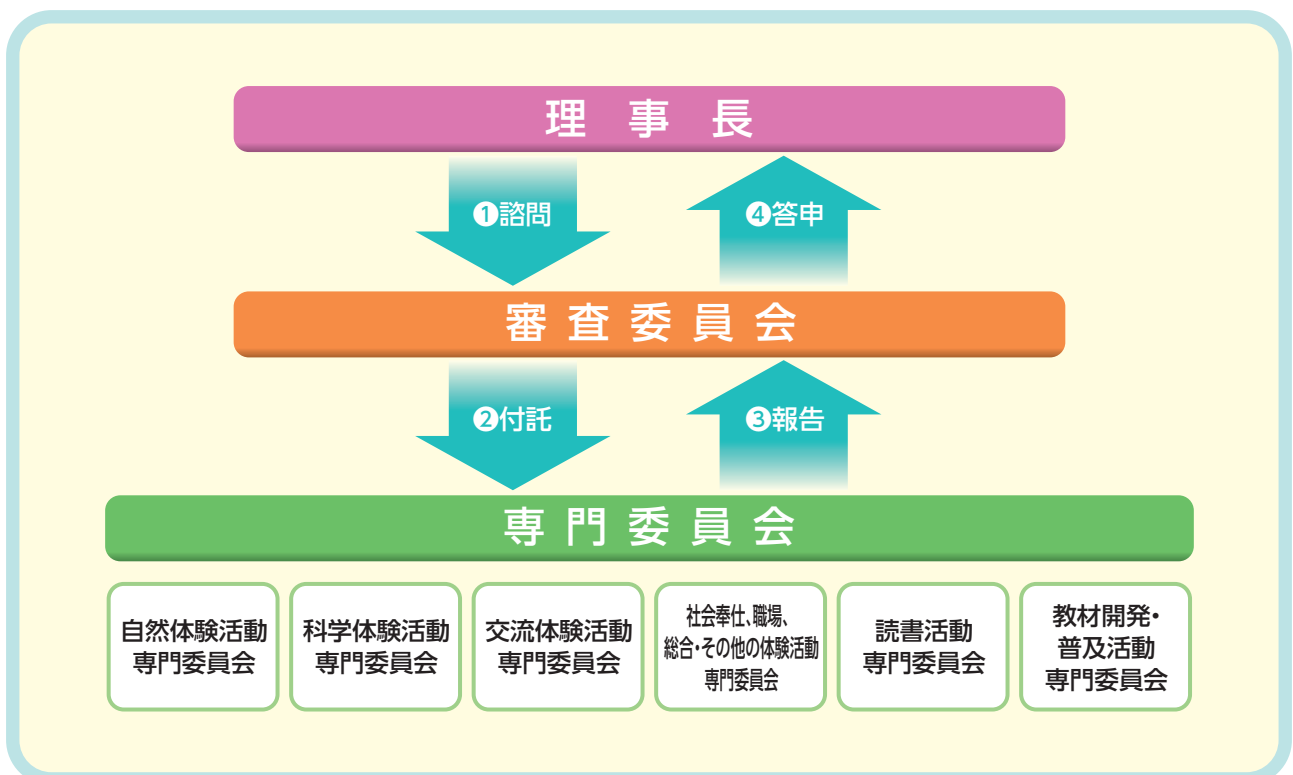
●助成の対象となる団体

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

●助成金の額と審査方法

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。



「子どもゆめ基金」の概要

● 経済的に困難な状況にある子供の体験活動や読書活動への助成

● 背景

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成26年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定（令和元年11月改訂）され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

● 取組の概要

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、令和4年度子どもゆめ基金助成活動には、111件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を84件採択しました。（一次募集分のみ）

● 助成の対象となる活動

この助成の対象となる活動は、以下1、2のとおりです。

1. 民間の児童養護施設や母子生活支援施設及び一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会並びにこれに加盟する母子福祉団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください。子どもゆめ基金までお問い合わせください。

● 普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。

（子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等）



子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ —申請までの流れ—

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイドを読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL：<https://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>



実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～10月にかけて全国40都市以上で実施しています。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。

子どもゆめ基金部主催説明会

2022年 9月 9日（金） 国立オリンピック記念総合センター（東京都渋谷区）

2022年 9月30日（金） オフィスパーク名駅カンファレンスセンター（愛知県名古屋市）

2022年10月 7日（金） 天満研修センター（大阪府大阪市）

子どもゆめ基金部共催説明会

2022年 9月 3日（土） 福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみん（福岡県福岡市）

※共催：夜須高原青少年自然の家

2022年10月17日（月） かでる2・7（北海道札幌市） ※共催：大雪青少年交流の家

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となる場合もございます。詳しくは子どもゆめ基金ホームページをご確認ください。

URL：<https://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。（メールでのお問い合わせ：yume@niye.go.jp、電話でのお問い合わせ：0120-57-9081月～金 9：00～17：45）

募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間 電子申請 令和4年10月1日（土）～11月29日（火） 17：00締切

二次募集期間 電子申請 令和5年5月1日（月）～6月27日（火） 17：00締切

◎二次募集は市区町村規模・申請額50万円以下3件までとなります。

◎初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。

募集案内は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。



教材開発・普及活動に申請をお考えの方は、26ページへ。

子どもゆめ基金ガイドの活用方法 —申請のワンポイントアドバイス—

活動例を読んだら団体のメンバーと相談して、企画してみましょう！

STEP3

STEP5

STEP1

令和3年度助成活動事例 子供の体験活動

**2021にじっこキャンプ
実施団体/Nijicco 新潟にじっこキャンプの会**

●活動期間/2021年6月20日(日)～10月9日(土)
日程/2日 夜泊1日 2泊3日
●活動場所/新潟県市五津連立少年自然の家、新潟県高田の森キャンプ場
●開催地域/新潟県および周辺地域
●参加者数/小学生(1～4年生) 10名
●実施方法/・チラシ(配布) 配布先/親子参加交流会、子ども夜会
・その他(上記団体のホームページ)
●職員数/2人

●活動を通してのSDGsへの取り組み
Nijicco 新潟にじっこキャンプの会は「Camp for everyone」の理念のもと、体験の機会に限りなくゆとり親家庭の子供へ自然体験を届けることにより、持続可能な開発目標(17個あるSDGs)の目標4(質の高い教育をみんなに)に取り組みしています。また、目標11(文化遺産を守る)の観点から、目標5(ジェンダー平等を実現しよう)にも取り組んでいます。

●活動のねらいとポイント
ひとり親家庭の子供の自然体験を通して、学校でも家庭でもない安心して遊べる場所をつくること、各自に合わせた種類の体験を提供すること、体験前後の安心の確保、向上を目指します。

具体的なプログラム名	主なポイント
海辺の音ウォークラリー	自然にある海辺の森キャンプ場から、自然林としてのクロマツの森、谷津や葉巻が広がる海浜林まで、音筒や小学生スタッフの手で、楽しみながら自然環境および自然とのアタッチメント(行装)を行います。
沢遊び・沢釣り	参加者各自の自己選択に基づいて、沢遊びや沢釣りに挑戦する。夏期にしか体験できない沢釣りの自然の中で思いっきり身体を動かすことで、達成感や他者への感謝を味わう。
森と海の恵みクラフト	紙づくりの活動、海苔の藻類等を用いた創作活動を行い、身近な自然環境への気づきや感謝、自然の恵みによる創造性を養う。また、キャンプの体験の思い出をカタチにする。

●参加者の安全対策・健康管理
【安全対策】①1ヶ月間の実施前及び実施後職員との打ち合せ、②自然観察所や参加者への配慮事項を全スタッフと情報共有、③実施前日(2ヶ月前)の天気・気温(感染症発生時)、④完全無菌なびばスタッフの確保、⑤特別に遊び・沢釣りでは、全参加者およびスタッフのPFD(ライフジャケット)着用と安全監視スタッフを配置
【健康管理】①参加者の生活・健康調査(アレルギー、既往症、履き慣れた靴など)と参加者の同意(健康調査、同意書)、②アースレスシート(防潮剤)の使用、③参加者保護(傘、スノーボードリンク等)、④キャンプ中実施の検温チェック、⑤コロナ対策の徹底(検温の2段階の検温チェック、消毒、換気、換)

STEP4

STEP5

自然体験

●活動の日程・内容

日	時間	内容	プログラム名
6/20	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/21	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/22	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/23	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/24	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/25	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/26	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/27	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/28	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/29	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	
6/30	10:00	集合時間(集合 5分前)	自然体験
	11:00	森の音ウォークラリー	
	12:00	昼食時間(昼食)	
	13:00	自然林のウォークラリー	

●活動の成果と課題
コロナ禍の状況もあり、ひとり親家庭は厳しい状況に置かれていました。また参加者のアンケートの要望を受け、宿泊や自然を多く楽しんでもらうこと、参加者が多く「また参加したい」と話し、開催までキャンプカウンセラーを思いやりしたこと、参加した子供心に残る体験になったのではないかと感じます。保護者からの事後アンケートも、プログラム内容、スタッフの対応、キャンプの雰囲気、運営など満足度が高い評価が返ってきたことも、また、目標通りではキャンプができていないのが「参加者の母親同士で仲良くなくなった」といった声も聞かれました。今後の課題としては、参加者間での交流手段を持たない家庭の子供も参加しやすいように、配慮を検討したいと考えています。

●団体概要
設立年月/2018年4月1日
設立の経緯/2018～2019年度は、地域の子ども達を対象として「にじっこサマーキャンプ」を行いました。その後2020年度からは、子育て支援活動の推進や地域での自然体験活動の推進に重点を置き、ひとり親家庭の子供のための「2020にじっこキャンプ」「2021にじっこキャンプ」を開催しました。
目的/Camp for everyone、自然の中で遊びながら遊んで子供たちにいるの喜びを届ける(1)こととスローライフに、また自然環境の子供を育むとして、地域の自然環境を志すにじっこキャンプ等の活動を行うことを目的としています。
職員/代表1名、副代表1名
(小学生、中学生30代～50代、男女比2:1)

自然体験

科学体験

社会体験

職業体験

国際体験

芸術体験

読書

教材

STEP1 「活動の目的」を考えてみましょう

1. 活動を通じて、参加者に伝えたい・感じてほしい・身につけてほしいことは何でしょうか。
2. 活動の目的やねらいを達成するためにどのような工夫ができるでしょうか。
3. 目的やねらいを達成する内容・ポイントは、活動プログラムのどの部分に盛り込みますか。

STEP2 「活動終了後の成果」を考えてみましょう

1. STEP1で考えた、活動の目的・ねらいが、どのように参加者の成長につながるかイメージしてみましょう。
2. 参加者の成長から、どのようなことが得られるでしょうか。団体の成長・発展について考えてみましょう。

STEP3 具体的に活動内容を考えてみましょう

1. 参加者の興味を引きそうな活動名を考えてみましょう。
2. 活動の対象者・募集人数・日程・活動の概要を考えてみましょう。

STEP4 「活動プログラム」の予定を組んでみましょう

1. STEP1～3で考えた内容を取り入れて、活動プログラムの1日の流れを考えてみましょう。
2. プログラム全体の運営は誰が担当するか、外部指導者は誰に依頼するか考えてみましょう。
3. 参加者の安全・体調管理にも留意しながら、タイムスケジュールを作成してみましょう。

STEP5 SDGs 達成に向けた活動の取り組みについて記載しました

1. 持続可能な開発目標 (SDGs) に対する各団体の取り組みを記載しました。
2. 各団体が取り組んでいる活動に関連する持続可能な開発目標 (SDGs) のアイコンを表示しました。(アイコンの詳細は P.6 参照)

4

子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介

『子どもゆめ基金助成活動情報サイト』
<https://pr.yume.niye.go.jp>



こんな方にオススメ！

- 子どもゆめ基金助成活動情報サイトでは、北海道から沖縄まで当該年度に採択された助成活動がすべて掲載されています。その数約 5,000 件。
※助成団体からチラシが提出され承認されたら、掲載になります。
- 全国各地の体験活動や読書活動、フォーラム、指導者養成活動を見つけることができます。
- 次の方々にオススメです。
 - ・ 子供に様々な体験活動をさせたい方
 - ・ 助成金申請を検討している方
 - ・ 他の助成団体の活動を見てみたい方
 - ・ 自分自身の興味・関心を深めたいという方
- 参加費のかからない活動も多数あります。
- 子どもゆめ基金助成活動の中から、普段の生活の中ではなかなか味わうことのできない感動や、一生心に残る体験をしてみたい方はいかがでしょうか。

ポイントは？

- キャンプなどの自然体験活動、実験教室やものづくり・プログラミングのワークショップなどの科学体験活動、異年齢・異世代・地域間等の交流活動、おはなし会やストーリーテリングなどの読書活動、その他さまざまな遊びや体験から、お好きな活動を選ぶことができます。
- スマートフォン、タブレットからも利用可能です。
- 活動の分野・種類など、さまざまな検索方法で、やってみたい体験を簡単に探すことができます。

検索方法は？

- ① **開催地域**
ブロック、都道府県から選ぶことができます。
- ② **開催日**
クリックするとカレンダーが表示されますので、開催日を指定することができます。
- ③ **活動の分野・種類**
助成の対象となる活動の分野・種類から選ぶことができます。
- ④ **募集対象**
活動への参加対象を選ぶことができます。(複数選択可)
- ⑤ **参加費**
無料・有料から選ぶことができます。
- ⑥ これから参加できる活動を紹介しています。

気になる項目にチェックを入れていただき、『検索』ボタンを押すと、検索結果が表示されます。



国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金は 持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた活動を 支援しています。

持続可能な開発目標（SDGs）の詳細



目標1【貧困】

あらゆる場所あらゆる形態の
貧困を終わらせる



目標2【飢餓】

飢餓を終わらせ、食料安全保障
及び栄養の改善を実現し、
持続可能な農業を促進する



目標3【保健】

あらゆる年齢のすべての人々の
健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4【教育】

すべての人に包摂的かつ公正な質の高い
教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



目標5【ジェンダー】

ジェンダー平等を達成し、
すべての女性及び女児の
エンパワーメントを行う



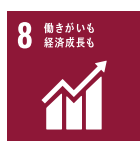
目標6【水・衛生】

すべての人々の水と衛生の利用可能性と
持続可能な管理を確保する



目標7【エネルギー】

すべての人々の、安価かつ信頼できる
持続可能な近代的なエネルギーへの
アクセスを確保する



目標8【経済成長と雇用】

包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての
人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある
人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する



目標9【インフラ、産業化、 イノベーション】

強靱(レジリエント)なインフラ構築、
包摂的かつ持続可能な産業化の促進
及びイノベーションの推進を図る



目標10【不平等】

国内及び各国家間の不平等を是正する



目標11【持続可能な都市】

包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で
持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12【持続可能な消費と生産】

持続可能な消費生産形態を確保する



目標13【気候変動】

気候変動及びその影響を軽減するための
緊急対策を講じる



目標14【海洋資源】

持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を
保全し、持続可能な形で利用する



目標15【陸上資源】

陸域生態系の保護、回復、持続可能な利
用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠
化への対処ならびに土地の劣化の阻止・
回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16【平和】

持続可能な開発のための平和で包摂的な社会
を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提
供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責
任のある包摂的な制度を構築する



目標17【実施手段】

持続可能な開発のための実施手段を
強化し、グローバル・パートナーシップを
活性化する



SDGsの実現に貢献する「持続可能な開発のための教育(ESD)」の紹介



持続可能な開発のための教育(ESD)とは

ESDとは、持続可能な社会の創り手を育むため、現代社会における地球規模の諸課題を自らに関わる問題として主体的に捉え、その解決に向け自分で考え、行動する力を身に付けるとともに、新たな価値観や行動等の変容をもたらすための教育であり、2002年に我が国がはじめて提唱した考え方です。現在、国際連合(国連)の専門機関であるユネスコ(国連教育文化科学機関)や世界各国において、ESDの取組が推進されています。

ESDは、環境教育はもちろん、国際理解、文化多様性、人権、平和等の個別分野を持続可能な開発の観点から統合させ、分野横断的に行われております。

また、SDGsの全てのゴールの実現への貢献により、公正で持続可能な世界を目指す「ESD for 2030」という新たな国際枠組みが、国連総会において採択され、2021年5月のESD世界会議をキックオフとして、本格始動しています。

一緒に、SDGsの実現に貢献するESDの取組をはじめませんか。

第2期ESD国内実施計画について

オールジャパンで我が国のESDを推進するとともに、世界のESDをリードしていくために、関係省庁が連携し、第2期ESD国内実施計画を策定しました(2021年5月)。

この計画では、「ESD for 2030」の理念を踏まえ、ESDがSDGs達成への貢献に資するという考え方を初めて明確化するとともに、ジェンダー平等、2050年カーボンニュートラル、AI・DXの推進等を踏まえつつ持続可能な社会の創り手を育成することを明記しました。

あわせて、ESD実現のため多様なステークホルダーを巻き込む方策や、「ESD for 2030」に示された5つの優先分野ごとに国内の各ステークホルダーが実施する取組を記載しております。詳しくは、二次元コードをご覧ください。

第2期ESD国内実施計画の
二次元コードはこちら



「ユネスコ未来共創プラットフォーム」
ポータルサイト
二次元コードはこちら



なお、「ユネスコ未来共創プラットフォーム」というポータルサイトでは、ESDをはじめとした全国各地の学校や民間団体等のユネスコ活動や、各種ユネスコ登録事業を掲載していますので、あわせてご覧ください。



『国立中央青少年交流の家』でのESDを通じたSDGs達成への活動



施設で重点的に
取り組む開発目標

当施設は、様々な関係者とパートナーシップを築き、多様な体験活動を通じた青少年の自立を目指すことで、未来を生きる青少年が活躍できる持続可能な社会の実現に貢献することができるように努めています。

アクション①

～一人一人への意識付け～

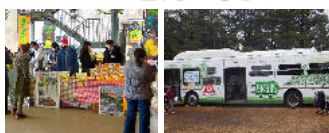


施設内に節電への意識を強化した掲示を行っています。スイッチ部分にも枠を張り付け、視覚的にわかりやすく表現しています。また、職員も自分の取り組む目標を決め、意識を高めています。



アクション②

～SDGsの啓発に寄与～



地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業「オープンハウス2021～SDGsフェスタ～」を開催し、SDGsに関連する体験活動やマルシェ等の出展を行いました。来場された方々に体験活動の楽しさを体感していただき、SDGsへの理解を深める機会を提供できました。

アクション③

～活動プログラムの開発～



SDGsへの興味・関心を高めるために、課題解決型「SDGs ミッションウォークラリー」を開発し、教育事業で実施した後に、研修支援団体の活動プログラムとして取り入れていきます。また、この活動プログラムの成果等について普及できるように進めています。

アクション④

～地域と協同した取組～



SDGsパートナーシップを推奨し、地域の団体が実施している取組を紹介するコーナーを施設内に設置し、SDGsの普及啓発を行っています。また、関係機関と連携し、所内の自然環境エリアの整備をしています。



体験からその先へ 富士のさと 中央

〒412-0006 静岡県御殿場市中柳2092-5

Tel:0550-89-2020 Fax:0550-89-2025 Mail: fujinosato@niye.go.jp



施設の情報等を発信しています



2021にじっこキャンプ 実施団体/Nijicco 新潟にじっこキャンプの会

- 活動期間/2021年6月20日(日)~10月9日(土)
日帰り2回 宿泊1回 2泊3日
- 活動場所/阿賀野市五頭連邦少年自然の家、
新潟市海辺の森キャンプ場
- 募集地域/新潟市および周辺地域
- 募集対象/小学生(1~6年生)
- 募集方法/・チラシ(配布先:母子福祉連合会、子ども食堂)
・その他(上記団体のメーリングリスト)
- 構成員数/3人



川遊び、「見て、何かいるよ」

●活動を通してのSDGsへの取り組み

Nijicco 新潟にじっこキャンプの会は「Camp for everyone」の理念のもと、体験の貧困に陥りやすいひとり親家庭の子供へ自然体験を届けることにより、持続可能な開発目標1「貧困をなくそう」、目標4「質の高い教育をみんなに」に取り組んでいます。また、母親にとって一時的なレスパイト(「一時休息」)の機会となることから、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」にも貢献します。



沢登りにも挑戦!!

●活動のねらいとポイント

ひとり親家庭の子供の自然体験を通して、学校でも家庭でもない安心して過ごせる場をつくること、各自に合わせた挑戦の機会を提供することで、他者関係や自尊心の回復・向上を目指す。

具体的なプログラム名	主なポイント
海辺の森ウォークラリー	砂地にある海辺の森キャンプ場から、防砂林としてのクロマツの森、佐渡や粟島が見渡せる島見海岸までを、仲間や大学生スタッフと歩き、楽しみながら自然環境および他者とのアタッチメント(「愛着」)を育む。
沢遊び・沢登り	参加者各自の自己選択に基づいて、沢遊びや沢登りに挑戦する。夏期にしか体験できない沢の自然の中でおもいきり身体を動かすことで、達成感や他者への信頼感を味わう。
森と海の恵みクラフト	松ぼっくりや貝殻、海岸の漂流物等を用いた創作活動を行い、身近な自然環境への気づきや感性、自由な発想による創造性を養う。また、キャンプの体験の思い出をカタチにする。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 ①1ヶ月前の実地踏査及び現地施設職員との打合せ、②危険箇所や参加者への配慮事項等を全スタッフと情報共有、③緊急対応マニュアルの作成・周知(搬送病院等含む)、④全参加者およびスタッフの保険加入、⑤特に川遊び・沢登りでは、全参加者およびスタッフのPFD(ライフジャケット)着用と安全監視スタッフを配置

【健康管理】 ①参加前の生活・健康調査(アレルギー、既往症、障がい等の生活上配慮すべき事項)、②持ち物の明記(常備薬、虫対策等)、③ファーストエイドセット(救急箱)の常備、夏は熱中症対策(氷、スポーツドリンク等)、③キャンプ中毎朝晩の体調チェック、④コロナ対策の徹底(事前の2週間の体調チェック、消毒、換気、等)

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/20	10:00	はじめの会・描画 (S-HTP)、なかまづくりゲーム
	11:30	森で自由遊び、昼食
	13:00	海辺の森ウォークラリー
	15:00	ふりかえり、おわりの会、解散
8/3	9:30	集合、バス移動
	10:30	はじめの会 (五頭連邦自然の家入所式)、アイスブレイク
	11:30	森で自由遊び、昼食
	13:00	川遊び
	15:00	テント設営
	16:00	野外炊事、夕食
20:00	ふりかえり、入浴、就寝 (テント泊か宿舍泊かは子供が自分で選ぶ)	

月/日	時間帯	プログラム内容
8/4	6:30	起床、野外炊事、朝食
	9:30	沢登り・川遊び (沢登りか川遊びかは子供が自分で選ぶ)
	12:00	昼食、森で自由遊び、休憩 (昼寝)
	14:00	スイカ割り
	15:00	野外炊事、夕食
	18:30	キャンプファイヤー
8/5	20:00	ふりかえり、入浴、就寝 (テント泊か宿舍泊かは子供が自分で選ぶ)
	6:30	起床、野外炊事、朝食
	9:30	テント撤収
	11:00	ふりかえり、おわりの会 (五頭連邦自然の家退所式)、昼食
10/9	13:00	バス移動、解散
	10:00	はじめの会、ネイチャーゲーム
	11:30	森で自由遊び、昼食
	13:00	森と海の恵みクラフト
	16:00	ふりかえり、描画 (S-HTP)、おわりの会、解散

●活動の成果と課題

コロナ禍の状況もあり、ひとり親家庭は厳しい状況に置かれていました。また前年のアンケートの要望を受け、宿泊や回数を多くして実施しました。参加者の多くが「また来年も行きたい」と話し、描画でキャンプカウンセラーを描いたりしたこと、参加した子供の心に残る体験になったのではないかと思います。保護者からの事後アンケートも、プログラム内容、スタッフの対応、キャンプの回数、満足度など肯定的なフィードバックをいただきました。また「母親ひとりではキャンプができないのでありがたい」「参加者の母親同士で仲良くなった」といった声も聞かれました。

今後の課題としては、集合場所までの交通手段を持たない家庭の子供も参加しやすいよう、配慮を検討したいと思います。



はじめてのテント設営



砂浜でクラフトの素材集め (上)
ネイチャーゲームのジャンケン落ち集め



●団体概要

【設立年月】 2018年4月1日

【設立の経緯】 2018～2019年度は、地域の子供達を対象として「にじっこサマーキャンプ」を行いました。その後2020年度からは、子供の貧困問題やコロナ禍でひとり親家庭が困難な状況にあることを受けて、ひとり親家庭の子供のための「2020にじっこキャンプ」「2021にじっこキャンプ」を開催しました。

【目的】 「Camp for everyone、自然の中でのびのびと遊んで子供たちのにじいろの個性を育む」ことをスローガンに、主に新潟市内の子供を対象として、地域の自然環境を活かしたキャンプ等の活動を行うことを目的としています。

【構成】 代表1名、副代表2名
(大学教員、年齢層30代～50代、男女比2:1)

有田・伊万里地区アウトドア塾 実施団体／有田・伊万里地区スカウト協議会

- 活動期間／令和3年6月5日（土）～11月6日（土）
日帰り4回
- 活動場所／佐賀県西松浦郡有田町大野すがの公園キャンプ場
- 募集地域／有田町及び伊万里市の一部地域
- 募集対象／小学生（1～3年生）、保護者
- 募集方法／チラシ（配布先：募集地域の小学校）
- 構成員数／10人

●活動を通してのSDGsへの取り組み

有田・伊万里地区スカウト協議会では、子供たちが樹木や草木等を利用し衣食住の生活の一部を形成する活動を体験することにより、森林資源の価値や便利さ、大切さを知り、持続可能な開発目標15【陸の豊かさを守ろう】を取り上げ、SDGsが目指す地球の環境を守る活動につなげるよう取り組んでいます。



1. ツイストパン用の棒を作る



2. 藁づくりの発表会の様子

●活動のねらいとポイント

自然の中で生活する楽しさと面白さを親子で体験し、家庭を巻き込んだ野外活動への関心を高めることをねらいとする。

具体的なプログラム名	主なポイント
山から雑木の枝を切り、その枝を使ってパンを作る。	刃物の安全な使い方を親子で話し合いながら体験する。また、こねた小麦粉を自分で作った棒に巻き付け、直接炭火で焼いて食べるという非日常の食体験から野外活動の面白さを感じさせる。
麦わらや草木を利用しダンボールで秘密基地を作る。	隠れ家（棲家）を持ちたいという子供の本来の特性を活かし、自由な発想と創造力で自分の居場所を作成させる。麦わらや草木等をふんだんに使って、自宅の庭の片隅に置き家庭での野外活動への関心を高める。
野外でのゲームを楽しむ。	親子での共同作業を基本に、グループ間で競い合う「対班競点」によるゲームを体験させる。また、教育的な効果が得られるようルールを厳守させチームワークを助長させるよう指導者は配慮する。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 事前の指導者会議で危険が予測される事態を洗い出し、危険の排除と回避の具体的方策を文章化し、参加者には危険を回避するためルールを厳守させた。指導者は危険を排除するために事前の現地踏査やプログラムの事前演習を行った。

【健康管理】 健康・安全担当の指導者を1名配置し、プログラム実施中における参加者の行動を観察させた。また参加者には事前健康調査票を受付で提出させ、簡単な聞き取りと検温を行い、異常がないか一人ずつ確認させた。



●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/5	9:00	事前健康チェック、受付
	9:10	開会、オリエンテーション、グループ編成
	9:25	アイスブレイキングゲーム
	9:40	ナイフとのこぎりの安全な使い方の訓練
	10:00	ツイストパンを巻く、木の棒を林の中にて調達する。
	10:45	小麦粉をこねて、木の棒に巻き付け、炭火でパンを焼く。
	11:30	焼き上がったパンを互いに試食しあう。
	11:50	評価、閉会
9/4	9:00	事前健康チェック、受付
	9:10	開会
	9:15	アイスブレイキングゲームとして、焼きジャガイモを作る仕込み
	9:30	「野営のシェルター」としての秘密基地づくりの説明
	9:40	麦わら、ダンボール、ひも等を自由に使って親子で秘密基地を作る。
	11:30	完成した秘密基地を互いに評価
	11:50	評価、閉会
10/2	9:00	事前健康チェック、受付
	9:10	開会、グループの対班競点によるゲーム大会であることを説明
	9:15	アイスブレイキングゲーム
	9:30	「ゴム銃」「弓矢」「飛行機」「暗夜行路」の各ゲームをベース方式で巡回する
	10:40	林の中でドングリを拾ってきてどんぐり独楽を作る作業を親子で行う
	11:20	作成したどんぐり独楽の回しゲーム競技を行う
	11:50	評価、閉会
11/6	9:00	事前健康チェック、受付
	9:10	開会
	9:15	導入（ナイロンビニールがなかった昔、稲わらで雨具を作っていた話をする）
	9:20	稲わらで作った蓑の見本を見せて、作成方法を説明
	9:30	親子で蓑を作成する
	11:30	作成した蓑を互いに評価する
	11:40	評価、閉会式。感想文を提出して解散する

●活動の成果と課題

今回の活動は小学低学年を主に、親子で楽しむ野外活動を目指しました。参加者の感想文からは、ほとんどが楽しかった、面白かったと評価しています。また保護者からは、子供の満足そうな顔を見た、学校以外での子供同士の関り方に驚いた、他の活動よりもアウトドア塾を子供が優先したとの感想もいただき、親子で野外活動を楽しむというねらいは達成されたと思います。一方活動では火起こしやノコギリの使用も初めてという保護者がほとんどで、まず親への野外生活体験と技術の伝承の必要性を感じました。学んだ親が子供に直接野外生活の楽しさを教える環境づくりを構築したいと思います。



3. 麦わらで秘密基地作りをしている様子



4. ゲーム的あての様子

●団体概要



【設立年月】 平成26年12月

【URL】 <https://www.arita-scout.org>

【設立の経緯】 ボーイスカウトの団体として自治体をはじめ各種団体や住民の方から多大な支援と協力を得て50年以上活動を続けることができました。活動の中で得た野外活動の楽しさや野営技能等を地域の子供たちに伝承することが地域へのお返しとしたいために設立しました。

【目的】 子供たちに野外活動を通じて、日常生活を豊かにする知恵と技術を修得させると共に、自然環境の中で人間関係を築き、良き社会人への成長に貢献することを目的としています。

【構成】 ボーイスカウト活動の指導者、職業は会社員、学校教師、団体職員、自営業等様々、学生は佐賀大学文化教育学部3年。年齢構成は70代3名、60代2名、50代2名、40代4名、20代2名の計13名。うち女子は2名。活動経験年数は50年以上が3名ほか10年以上がほとんどです。

子ども科学教室～ドライアイスマジック～ 実施団体／村山地区天文・科学ラボ

- 活動期間／令和3年8月10日（火）～9月12日（日）
日帰り7回
- 活動場所／寒河江市総合福祉保健センター 大江町中央公民館
河北町職業訓練センター 天童市立中部公民館
中山町中央公民館
- 募集地域／寒河江市 大江町 東根市 河北町 天童市
中山町 山辺町
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／チラシ（配布先：募集市町内の小学校45箇所）
- 構成員数／2人



「ドライアイスの紹介」
板状のドライアイスを参加者全員に持ってもらう。重さと冷たさを感じる。

●活動を通してのSDGsへの取り組み

実験材料や器具は日常生活で出る廃品を極力再利用し、持続可能な開発目標 12 [つくる責任 使う責任] への啓発としています。また、活動素材がドライアイスなので、CO2 地球温暖化原因説の肯定論と否定論を簡単に解説することを通して、目標 13 [気候変動に具体的な対策を] に対する各自の具体的な行動を考え実行するよう働きかけています。



「消える火」
二酸化炭素の中に火のついたろうそくを入れ、変化を見ている様子。

●活動のねらいとポイント

ドライアイスを使った諸活動を通して低温の世界を体験させ、物の性質や三態変化（固体→液体→気体と変化すること）についての興味関心を高める。

具体的なプログラム名	主なポイント
1 二酸化炭素内でのものの燃焼	二酸化炭素で満たされた容器にろうそくを入れて炎の様子を観察し、二酸化炭素内ではものが燃えないことや、空気との境界の存在を理解する。
2 ドライアイスカーリングゲーム	ドライアイスをもとに向けて滑らせる活動で、床を濡らさず蒸発することから、「昇華」の現象やドライアイスの名前の由来（乾いた氷）を理解する。
3 ミニロケット飛ばし	フィルムケースをミニロケットに見立て、ケース内にドライアイスの小片を入れて蒸発させ、二酸化炭素の圧力によりケースを飛ばす。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】ドライアイスを使うので、凍傷を防止するために軍手を着用する。ドライアイスを持ち歩く際は発泡スチロールトレイを使い、極力手で持たないようにさせる。さらに、活動に熱中してドライアイスの小片が軍手の中に入っていることに気づかないこともあることなどを伝え、十分な注意を促す。

【健康管理】新型コロナウイルス感染予防のために活動場所で最も広い部屋を借用し、密集を避ける。さらに、マスクの着用、検温、消毒、常時換気を徹底する。事故や体調変化等に備え、休日当番診療医院や救急病院の確認を行う。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8/10	19:00~ 19:35	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライアイスの紹介 円柱型容器の水中にドライアイスを入れ、発生する泡に注目させる。 ・マジック1 消える火 火のついたろうそくを、PET ボトル内の二酸化炭素に入れて炎の様子を観察する。 ・マジック2 不思議な天秤 空気と二酸化炭素の重さくらべ（講師の演示実験） 天秤を用いて空気と二酸化炭素の重さを比較し、二酸化炭素が重いことを確認する。 ・マジック3 シャボン玉のホバリング（講師の演示実験） シャボン玉を二酸化炭素で満たした水槽の中に落とし、空中に静止させる。 二酸化炭素の存在と、空気より重いことを視覚的に確認する。
	19:35~ 20:25	<ul style="list-style-type: none"> ・マジック4 鳴るスプーンや机（講師の演示実験） ドライアイス板の上に置いたスプーンが細かく上下してベルのような音を出す。 接触面で二酸化炭素が蒸発し、スプーンが上下して音が発生していることを伝える。 ○ドライアイスの蒸発を利用したカーリングゲーム（まど当てゲームも同時に行う） ドライアイスが蒸発して徐々に小さくなって、床が濡れていないことに気づかせる。
	20:25~ 20:45	○蒸発した二酸化炭素の圧力によるミニロケット（フィルムケース）飛ばし

月/日	時間帯	プログラム内容
8/10	20:45~ 21:00	凍結実験 ザラメ状のドライアイスに、少量の水を入れたビニール袋を入れて凍結させる。 水が短時間で凍ることから、ドライアイスの低温を実感させる。 （上記と同一の内容を5つの施設で1~2回ずつ、計7回開催）

●活動の成果と課題

児童達は開催した5ヶ所のどの会場でも興味を持って積極的に活動していました。講師の演示実験や個人で行う実験などの全てが初めてということもあり、非常に満足している様子でした。ある保護者からは活動終了後に、「貴重な体験をさせて頂きました。ありがとうございました。」と感謝の言葉をいただきました。おそらく大人もドライアイスの一般的な知識は持っているものの、長時間実物に触れているいろいろな体験をするのはこの活動が初めてのことと思われました。課題は次の2点です。①ねらいに迫るための、活動全体の流れの検討と、より良い実験の選択 ②コロナウイルス感染予防の観点から、児童が実験する時の動き（動線）を最小にし、密を避ける方法の検討。



「不思議な天秤」
二酸化炭素を透明な袋に入れると下がる現象を見ている様子。



「ドライアイスカーリング（的当て）ゲーム」床の上を滑らせてドライアイスを目標の場に止めたり、的を倒したりする。一人1レーンとして密と交差を防いでいる。

●団体概要

【設立年月】 2016年4月

【設立の経緯】 本県では児童対象の科学教室がおもに公立の研究施設を中心に開かれています。これらの施設は県庁所在地に多く、周辺市町在住の児童は移動や時間の関係から気軽に参加できません。この状態を改善するために地域の有志で設立しました。

【目的】 児童対象の科学教室をより身近な施設で継続的に開催することを通して、天文や科学一般への興味関心を育みます。

【構成】 団体構成員は男3名、女2名、計5名です。退職、現役の公務員や会社員、学生等で、70代2名、60代1名、50代1名、10代1名です。

親子で学ぶおもてなし「和の作法」伝統文化総合体験 実施団体／金沢市音楽文化協会

- 活動期間／令和3年10月16日（土）～令和4年1月23日（日）
日帰り7回
- 活動場所／金沢市立中村記念美術館旧中村邸茶室、
兼六園 寄観亭、金沢歌劇座、石川県平和町庁舎
- 募集地域／石川県内市町及び隣縣市町
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：市内小学校全生徒に配布、ほか
県内小学校）
・その他（地元新聞に広告掲載（団体主催の他活動
と合わせ）
- 構成員数／44人



茶道体験：
茶道具名称、使い方、作法を学ぼう



生け花：
親子でお花を生けてみよう

●活動を通してのSDGsへの取り組み

金沢市音楽文化協会では子供たちが伝統ある加賀料理に使われている加賀野菜など食材や調理法の説明、和食のマナーを体験する活動を通して、限りある資源の有効利用について考え実生活に活かすことにより、持続可能な開発目標15【陸の豊かさを守ろう】に取り組んでいます。

●活動のねらいとポイント

「和の作法」を総合的に交流体験し日本の心を学び、郷土の魅力を発見し、思いやりやおもてなしの心を学ぶ。

具体的なプログラム名	主なポイント
伝統文化の体験	礼儀作法、茶道の基本・作法・歴史、茶室の建築、茶道具、掛け軸等を総合的に学ぶ。生け花の基本・作法・実技を学ぶ。和楽器・箏に触れ演奏する。伝統文化の体験を通して、茶道、生け花などの作法の基本を身に付けおもてなしの心を学ぶ。子供たちが伝統文化に興味を持ち、魅力を発見し、郷土に誇りを持つ。
和の作法おもてなし体験	和食マナー、着物の着付けの方法を学ぶ。和室での振る舞い礼儀作法を学ぶことにより、日本の心を学び石川の魅力、素晴らしさを発見し、日本の魅力を紹介できる人として育てていくきっかけとする。礼儀作法やお茶の作法は、大人と子供が主人及び客の役になり双方の心使いを学ぶことにより思いやりの心を学ぶ。
交流による人間形成	総合的な伝統文化を親子で体験することにより、家族の会話が増え、講師や親同士、子供同士の交流が促進され、自主性・協調性・主体性などを育む。地域の子供と大人の絆づくりの機運が醸成され、貴重な文化を後世に継承し、文化の力で世代間をつなぐ目標を果たす。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 活動開始前に全体への安全確保について説明する。各グループに配置した団体構成員が保護者の協力も得て活動をサポートする。

事前に会場側管理担当者と案内表示、避難経路確認等の打合せを行い安全対策を徹底する。

【健康管理】 団体構成員が、新型コロナウイルス感染予防のため子供及び保護者等参加者の健康確認を行う。

受付時の体調の確認、体温検査、消毒、マスクの徹底を図る。会場では3蜜を避け、換気を定期的に行う。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10/16	10:00～ 12:00	茶道裏千家講師からおもてなしのこころのお話、和室での振る舞い礼儀作法を学ぶ、毎回終了時に参加した子供一人一人が体験し学んだこと、感想を発表する。 各回とも講義30分、体験60分、交流発表30分程度ほか準備、片付けも体験する 【金沢市立中村記念美術館旧中村邸茶室】
10/17	13:00～ 15:00	茶道裏千家講師から茶道の基本・作法・歴史、茶室の建築、茶道具、掛け軸等を総合的に学ぶ。 【金沢市立中村記念美術館旧中村邸茶室】
11/6	13:00～ 15:00	和食マナー講師から加賀野菜など食材や調理法の説明、和食の食事マナーを学ぶ。 【兼六園 寄観亭】
11/7	14:00～ 16:00	華道池坊教授から生け花の基本・作法・実技を学び、完成した作品の発表説明を行う。 【石川県平和町庁舎会議室】
11/20	10:00～ 12:00	生田流正派邦楽会大師範の指導で和楽器・箏、三絃を演奏し楽器の魅力に触れる。 【金沢歌劇座】
12/19	14:00～ 16:00	国家検定着物着付け技能士から着物の着付けを学び、気軽に着る機会を増やす。 【石川県平和町庁舎会議室】
1/23	14:00～ 16:00	生田流正派邦楽会大師範の指導で箏を演奏し成果発表する。 【石川県平和町庁舎会議室】

●活動の成果と課題

活動の成果

世代の異なる参加者との交流体験で、お互いの心を合わせて活動する力を養うことで思いやりの心や協調性と信頼関係を育むことが出来ました。年長組は下級生の面倒をみて準備から最後の後片付けまでを協力することで団体活動の中でルールや助け合い、自分の役割を見つけ、人との絆を学ぶ達成感を味わうことが出来ました。

毎回、活動のふりかえりの機会として感想を発表することでその日の達成感・充実感を味わいつつ、自信をもつことが出来ました。親子で体験したことで家族での会話が促進されました。

課題

毎年多くの応募者があり抽選で参加者を選定しています。新型コロナウイルス収束時には定員増加を予定しています。



和楽器に触れる：一緒にお箏を弾いてみよう



和室のマナー：座礼の仕方を学ぼう

●団体概要

【設立年月】 1971年11月1日

【設立の経緯】 金沢の伝統文化を日本国内始め世界に向け、発信し、国際音楽文化交流を推進するため金沢市内で活動する邦楽、洋楽の演奏家団体が大同団結し協会を設立しました。

【目的】 市内の音楽団体並びに音楽に関心を有する個人の連絡を密接にし、音楽文化活動の推進力となって音楽文化の普及に努め、もって市民の文化向上を図ることを目的としています。音楽文化国際交流としてロシア、韓国、イタリアとの相互訪問を継続し交流演奏会を開催しました。特に子供の伝統文化体験活動、後継者育成のための邦楽講座を毎年開催し未来の人材育成に力を注いでいます。

【構成】 加盟団体・会員構成

音楽文化団体：市内の28団体 3,000人

年齢層（10代から20代20%、30代から50代30%、60代以上50%）

パラリンピック競技の体験をしてみようーボッチャの体験と車いす体験ー 実施団体／特定非営利活動法人ホワイトベル

- 活動期間／2021年8月26日（木） 日帰り1回
- 活動場所／高崎市立塚沢小学校体育館
- 募集地域／高崎市
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／チラシ（配布先：市内公民館 等）
- 構成員数／8人

●活動を通してのSDGsへの取り組み

持続可能な開発目標3 [すべての人に健康と福祉を] の取り組みとして心の健康が身体の健康にも繋がるので生涯健康な体でいられるようにノルディックウォーキング体験や古武術等を活用して自分の体の使い方を学び、将来寝たきりにならないような福祉活動を行っています。目標4 [質の高い教育をみんなに] の取り組みとして、その子にあった遊び（体験学習）を通して心と脳の柔軟性を養う体験を通して発達を促進させる学習体験を行っています。



ボッチャと車いすについて勉強をしている様子



ボッチャ体験をしている様子

●活動のねらいとポイント

パラリンピック競技の1つであるボッチャを体験することで、子供たちに思いやりと勇気を伝える。また、日常用の車いすに実際に乗ったりサポートすることで、障害がある方の気持ちに近づける。

具体的なプログラム名	主なポイント
ボッチャの道具やルールの説明	ボッチャは障害があるなしに関係なく子供でも対応できることを知る。三密を防ぐスポーツとして再認識し、柔軟な心を育てコロナに打ち勝つ力を育む。
ボッチャ体験	パラリンピックの競技を体験し、障害がある方への理解を深め、思いやりの心を育み、誰でも自分の出来る力を活かしてがんばっていることを知る。
日常の車いす体験	乗る側と、サポートする側の両方を体験することで障害がある方の気持ちを理解し、今後のボランティアの活動に役立てる。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 体験したことが少ない車いすで実施するため、スタッフを十分にけがのないように注意する。スタッフには、事前に活動内容の説明をし理解させる。密にならないよう、間隔を空けて行い、空気清浄機を置き、消毒液も用意する。

【健康管理】 暑い時期なので、十分な水分補給を取るようこまめに休憩を取る。水分補給は自由に行う。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
8/26	12:30~	受付
	13:00	あいさつ 日程の説明 講師紹介
	13:15~ 13:30	ポッチャの道具やルールの説明
	13:30~ 14:00	グループに分かれてゲームの体験
	14:00~ 14:15	車いす操作の説明
	14:15~ 14:45	グループに分かれて車いす体験
	14:45~ 15:00	資料を使っての詳しい説明と質疑応答
	15:00	閉会

●活動の成果と課題

子供たちの行事が制限されることが多くなっている中、今回無事に活動を実施することができました。

ポッチャはとても好評で、パラリンピックまでではなく毎年このような取り組みを継続してほしいとの意見を多くいただきました。

今後の課題として、車いす体験は、待ち時間を少なくするように車いすの台数を増やします。

コロナ対策として水素とオゾンによる空気清浄機と水素の消毒液を用意します。

このような体験を通して未来のボランティアを育てていきたいと思えます。



車いすの使い方を教えてもらっている様子



実際に車いすに乗って移動している様子

●団体概要



【設立年月】 2008年7月28日

【URL】 <http://www.npo-whitebell.jp>

【設立の経緯】 地域の人々との交流を通して20余年間ボランティア活動を続ける中で、日常生活の中にある様々な問題はコミュニティの不足によるところが多いのではと思うようになり、新しいコミュニティの形をもったNPOを市民の手でつくりだせようかと思案し、同じ思いをもったものが集まり「個人の尊厳を大切に」を基本として、より広く活動を展開し継続していきたいという思いから「ホワイトベル」を設立し、2008年7月認証され設立しました。

【目的】 この法人は、地域で暮らす人々に対して、生涯を通じて安心と安全の生活がおくれるよう、また個人の尊厳を大切にすることができるよう支援する事業を行い、希望を持って生きていける社会の実現に寄与し、未来の子供たちに繋げていくことを目的としています。

【構成】 理事長を含む役員10名、一般会員、賛助会員約100名

伊勢湾 ECO デイキャンプ2021 実施団体／特定非営利活動法人 四日市ウミガメ保存会

- 活動期間／2021年6月6日（日）～11月7日（日） 日帰り2回
- 活動場所／四日市市吉崎海岸
- 募集地域／四日市市
- 募集対象／未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、中学生、高校生、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：日永小、泊山小、常盤小、楠小） ・ポスター（掲示先：日永地区、楠地区）
・その他（イオンタウン）
- 構成員数／26人

●活動を通してのSDGsへの取り組み

伊勢湾ECOデイキャンプでは、自然の海でのごみ拾い活動やゴミを活用した流木アートづくり、砂浜をキャンバスにしたアート体験を行いながら、子供たちにごみの発生源と対策を考えさせ、そこから山、川、里、海の繋がりを知ることで、持続可能な開発目標14「海の豊かさを守ろう」に取り組みました。



吉崎海岸を清掃した後に砂浜をキャンバスにアート制作をしている様子



吉崎海岸の清掃体験と流木集めの様子

●活動のねらいとポイント

伊勢湾の吉崎海岸でゴミ拾いの社会奉仕体験と、海洋ゴミを使って遊びながらのアート体験を行うことで、身近な自然を学ぶ。

具体的なプログラム名	主なポイント
自然体験	吉崎海岸に流れ着く自然ゴミ、人工ゴミを拾い発生源を考え、ゴミ問題を学び環境を通してアート体験をさせる。 海岸漂着物から地球温暖化防止対策に繋げる活動を考えさせる。 海洋ゴミを使ったアート作品や砂浜をキャンバスに砂浜アートづくり体験を子供たちと作り自然の大切さを学ぶ場を提供する。
社会奉仕体験	遊びを通じて、海洋プラスチック問題を知り、海岸清掃を体験して社会奉仕の大切さを体験させる。 ゴミ問題を考え環境問題を考える場の提供と情報発信により大人にも伝えていく。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 海岸清掃時は海へ入らない事の徹底と子供10名毎にスタッフ1名を配置する。
近隣の病院の確認を行いリスク対応を行う。
- 【健康管理】 熱中症対策としてこまめな水分の摂取と休憩を実施させる。
コロナ感染拡大予防としてのマスク着用とソーシャルディスタンスの確保をする。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/6	7:45	四日市吉崎海岸現地集合
	8:00	吉崎海岸散策・ゴミ拾い
	9:00	ウミガメのお話
	9:30	砂浜アートづくり体験
	10:30	ドローン撮影会
	10:45	海ごみゼロ活動 グループ発表
	11:00	終了
11/7	7:45	四日市吉崎海岸現地集合
	8:00	吉崎海岸散策・ゴミ拾い
	9:00	自然の勉強会
	9:30	流木アートづくり体験
	10:30	作品発表
	11:00	終了

●活動の成果と課題

自然の海岸にあるごみを拾い、発生源を知り、そのゴミを活用した流木アートやウミガメが産卵に訪れる砂浜をキャンバスにしてアートづくり体験をしたことで海洋資源問題を考えることができました。

社会奉仕体験として、子供たちは遊びを通じて海洋プラスチック問題を知り、海岸清掃を体験して社会奉仕の大切さを体験しました。

子供の活動を見て、大人にもゴミ問題を認識してもらう相乗効果も期待されました。

また、コロナ禍でもできる活動としてソーシャルディスタンスの確保をして屋外での体験を実施しました。



伊勢湾の環境問題を学ぶ勉強会の様子



ごみを使ってアート作品作りに取り組んでいる様子

●団体概要



【設立年月】 2015年8月13日

【URL】 <http://umigame2009.com/index.html>

【設立の経緯】 2009.1. 四日市ウミガメ保存会として、吉崎海岸定例清掃開始しました。毎月第一日曜日に定例清掃を継続しています。2014.7. 吉崎海岸にアカウミガメ産卵を確認し、清掃活動の成果となりました。2015.8.NPO 法人化を行い、2016.3. 四日市市環境活動賞を受賞しました。

【目的】 この法人は、アカウミガメの産卵地でもある美しい吉崎海岸の自然を守りながら、美しい四日市の自然を広く市内外に発信していくとともに、四日市と吉崎海岸を愛する有志が清掃活動やボランティア活動を通じて親交を深め、人の輪を広げていくことを目的とします。

【構成】 社会人とシニア世代で構成し年齢層は20代2名、30代3名、40代6名、50代4名、60代9名、70代2名 計26名 (2022/4 時点)、男女比は男性14名、女性12名。
イベント、定期清掃時の受付や活動支援を行っています。

美ツザニア in あいち 実施団体／愛知県美容業生活衛生同業組合

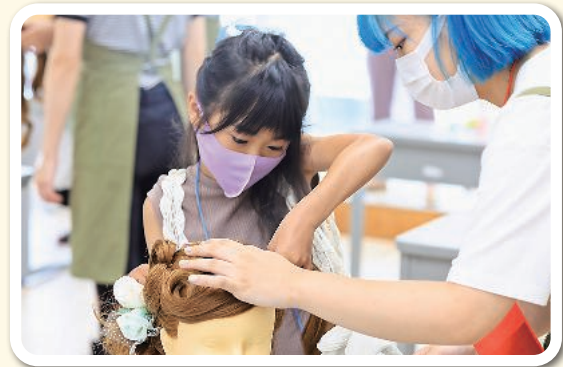
- 活動期間／2021年7月26日（月） 日帰り1回
- 活動場所／美容あいち会館・中部美容専門学校
- 募集地域／愛知県
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生
- 募集方法／チラシ（配布先：名古屋市内小中学校 及び 美容室）
- 構成員数／80人

●活動を通してのSDGsへの取り組み

愛知県美容業生活衛生同業組合では、子供たちが職業体験をする活動を通して美容に対する実習体験を行うことにより、質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する持続可能な開発目標4「質の高い教育をみんなに」に取り組んでいます。



カット体験をしている様子



ウィッグを使ってヘアアレンジ体験をしている様子

●活動のねらいとポイント

美容師の仕事や働くことに対する関心と理解を深めることを目的とした。

具体的なプログラム名	主なポイント
美容師体験ブース	カット、カラー、パーマ、アレンジブースを用意し、はさみの持ち方、パーマの巻き方など、美容師の具体的な仕事を体験する。
撮影体験ブース	ウィッグ（かつら）などを使って変装したり、自分の髪をアレンジしてもらったりしてプロの撮影現場を再現し撮影体験をする。
髪飾り作り・シャンプー作り体験	造花や小物を使って、髪飾りを造る。シャンプー作りは香り（アロマオイル）を自分で選び、オリジナルシャンプー作りを体験する。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】ハサミなどはプロ用の切れ味の鋭いものではなく文具用を使用する。基本的に子供5人に対して大人1人の割合で監督するが、低学年の子供がいるブースなど、特に安全面での配慮が必要な場合は、さらに監督者を増やす。

【健康管理】熱中症対策として来場者へお茶を提供。全員に対して入場時に検温と問診を行い、異常がみられる場合は入場をお断りする。全員マスクをする。来場者全員に氏名と連絡先を明記させる。各ブースの一定間隔を確保し、参加者人数の調整する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/26	8:00	協力者 集合 設営・ミーティング
	9:00~ 9:45	受付開始
	10:00~ 13:00	美ッザニア 美容師職業体験 《体験内容》 カット体験…ウィッグをカット。 カラー体験…毛束を染める。ハケを使って ウィッグを塗布体験。 パーマ体験…毛束に実際のパーマ液を使って巻く。 アレンジ体験…くるりんぱアレンジ体験。 ウィッグにピンやゴムを使って アレンジ。 シャンプー作り体験…シャンプーを作る。 撮影体験…撮影スポットでプロのカメラマンに 撮影してもらう。 髪飾り作り体験…髪飾りを作る。 ヘアチョーク&ヘアアレンジ体験【自身の髪で】 ………自分の髪をアレンジしてもらう。
	13:00	参加者 退場
	13:20	活動終了



●活動の成果と課題

コロナ禍で子供の体験ができる場所が減ってきている中では、出来る限りの活動が出来たと思います。愛知県で初となる『美ッザニア』は、子供たちも楽しそうに美容師という仕事を体験して、美容への興味や仕事に対する考えにも繋がる活動になったと思えました。この活動を全国へ広め、興味のある子供たちに早い段階から実体験できるようにしていきたいです。将来、仕事を選択する上で役立て、美容師を目指す若者が増えてほしいです。今後の課題としては、たくさんの子供が体験できるように、他団体でも同じ活動が出来るように情報を共有し、希望者全員が参加出来るようにしていきたいです。



髪飾り造り体験の様子

カラー体験 ウィッグに練習用カラークリーム(トリートメントを使用)で塗布している様子

●団体概要

【設立年月】 1957年12月

【URL】 <https://www.biyou-aichi.or.jp/>

【設立の経緯】 当団体は、愛知県知事に県内で唯一認可された同業組合で、生活衛生法に基づき組織されています。設立以来、美容業界の発展はもとより、消費者や利用者の利益のために自主的な活動を行っています。また、平成30年1月には、組合創立60周年式典を実施するなどの長い歴史を持ちます。今後もこの歴史を受け継ぎ、美容業界だけでなく、お客様や関係者の方の利益となるよう未来に向けて活動していきます。

【目的】 1. 組合員の経営の改善、生活の向上を目指します
2. 業界内の秩序維持と衛生維持を目指します
3. 業界全体の地位の向上を目指します

【構成】 役員 : 理事40名、監事3名
総代 : 124名
組合員 : 3,751名



防災体験活動 子ども防災まち歩き in 日和山 実施団体／特定非営利活動法人 放課後こどもクラブ Bremen

- 活動期間／2021年11月22日（月） 日帰り1回
- 活動場所／石巻市 3.11みらいサポート『MEET 門脇』、日和山
- 募集地域／石巻市、東松島市、女川町
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：市内小学校）
・ポスター（掲示先：市内小学校）
- 構成員数／9人



はじめに震災前の門脇の様子をお話してもらいました。

●活動を通してのSDGsへの取り組み

放課後こどもクラブ Bremen は、誰ひとり残さないという方針の下、障がい児も健常児も分け隔て無く、障がいも大切な個性と認め合える場を目指して、放課後児童の健全育成を行っています。持続可能な開発目標は目標3 [すべての人に健康と福祉を] から始まり、目標4 [質の高い教育をみんなに]、目標5 [ジェンダー平等を実現しよう]、目標1 [貧困をなくそう]、目標11 [住み続けられるまちづくりを]、目標16 [平和と公平をすべての人に]、目標17 [パートナーシップで目標を達成しよう] への取り組みを目指しています。



門脇小学校の元校長先生から、震災当時の様子を話してもらいました。

●活動のねらいとポイント

児童が学校以外の場所にいる時に地震などの自然災害に遭遇した場合を想定して、被災時の行動について考え、とっさの行動がとれる力を育むきっかけをつくる。

具体的なプログラム名	主なポイント
防災に関する説明	地震などは学校にいる時に発生するとは限らないため、休日や放課後に自宅や外にいる時に、どのような場所・状況でどのような危険があり、どのように対処すべきかを説明し、様々な状況での被災時の対処方法を考え、備えるきっかけとする。
ワークショップ “津波が来たら”	津波の危険性とハザードマップなどの説明の後、グループに分かれて、実際に学校以外の場所にいたときに津波が発生した時の事を想定して、避難の仕方などを議論し、防災意識を高める。
避難訓練	日和山の近くで地震に遭い津波が発生することを想定して、日和山公園に避難する実地訓練を行い、実際に同様なことが起こった時のことを考え、行動できるきっかけをつくる。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 活動実施場所とその近辺の状況をあらかじめ下見し、安全対策に万全を期する。交通安全に十分注意を払う。避難経路は急な石段や狭い道もあるため、特に当日雨天となりそうなことも考え合わせ、前日に避難経路を入念にチェックする。
- 【健康管理】 事前に保護者から子供たちの健康状態などを確認する。保健師が参加、健康衛生指導などを適宜対応する。室内に集まり説明・議論などをする際は、入室時の検温、手指消毒、室内は換気を良くし、マスク着用し、人と人の間隔を十分に取るなどコロナ感染症対策を確実に行う。



●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
11/22	10:00	現地（3.11みらいサポート「MEET 門脇」）集合
	10:10～ 11:00	ワークショップ「門脇を避難する時の取るべき経路と避難先について」 ・ハザードマップの説明を受けた後、地震発生時にもし門脇地区にいたとしたら、津波の可能性も考えると、どんなところにどんな危険があったらどこにどのように避難すべきかを話し合った。 講師：（公社）3：11みらいサポート
	11:00～ 11:30	講座「東日本大震災—その時門脇小学校は—」 ・東日本大震災発生当時 門脇小学校でどんなことが起こったかについて、当時の校長先生からの話を聞いていろいろな学びを得た。 講師：元門脇小学校校長
	11:30	「MEET 門脇」出発（避難訓練開始）
	11:45～ 12:15	日和山到着、まとめ・振り返り
	12:15～ 13:00	昼食・活動終了



避難の経路にある避難看板を見ながら標識の意味の説明を受けました。



日和山の階段を登っての避難では障がい児や体力がない子らをいたわりながら登りました。



日和山に登り切り、全員集まってまとめと終わりのあいさつをしました。

●活動の成果と課題

当日は雨が降り、荒天の中での避難訓練でした。子供たちが日常遊んでいる場所が、自分たちが生まれる以前は多くの家が立ち並ぶ街だったことに気がつくことができ災害の恐ろしさを改めて感じ取ることができました。

また、当時の小学校の校長先生のお話から自分たちと同じ小学生の子供たちがどのように日頃の災害に備えていたかを知り、万が一のときには素早く逃げる事の大切さを知ることができました。

また、筋力の弱い障がい児も参加しましたが、子供たち同士がいたわり合いながら、障がい児自身も皆と一緒にがんばろうとし、皆で共に避難しようという気持ちを養うことができたと思います。

●団体概要

【設立年月】 2012年5月3日 任意団体として設立 2018年7月 法人化

【URL】 <https://bremen-ishinomaki.org>

【設立の経緯】 東日本大震災後の平成23年3月、34年間の教員生活を辞し、4月より石巻市緊急学校支援員として子供たちの心のケアにあたりました。

児童の生活・学習・文化面での震災による困難を見かねて、平成24年5月に任意団体「放課後こどもクラブ Bremen」を設立。教員免許保持者に呼びかけて学習支援付きの安心で安全な児童の居場所づくりを始めました。

【目的】 地域の児童に対してより適切な遊びと生活の場を与え、心身の健全な育成を図ることを目的とします。

【構成】 理事長：1名 副理事長：1名
放課後児童指導員：5名
事務スタッフ：2名



自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

その他の体験

読書

教材

絵本専門士・朗読指導者のたのしいおはなし会 実施団体／絵本専門士ユニット Peek-a-boo

- 活動期間／2021年4月3日（土）～2022年3月5日（土） 日帰り10回
- 活動場所／ブックハウスカフェ神保町
- 募集地域／東京都内 神保町周辺
- 募集対象／未就学児（1～6歳）、小学生（1～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：ブックハウスカフェ・国立オリンピックセンター図書室）
・ポスター（掲示先：ブックハウスカフェ 神保町）
- 構成員数／10人

●活動を通してのSDGsへの取り組み

物語体験を通して、自ら本を読むことの楽しさをきっかけに、子供たちがより質の高い教育を求める環境を構築する一助となることを目的とし、また、物語の中から、平和や公正、世界には様々な環境に置かれている人がいることに心を寄せることで、子供たちが誰に対してもオープンで公平に接することができるような人材育成を心がけることで、持続可能な開発目標4 [質の高い教育をみんなに]、10 [人や国の不平等をなくそう] に取り組んでいます。



ブックハウスカフェ全景



手遊び キャベツの中に

●活動のねらいとポイント

子供たちと大人が絵本を共に楽しむことで、絵本を活用した文字活字文化の発展の一助となる活動を目指す。

具体的なプログラム名	主なポイント
絵本専門士・朗読指導者のたのしいおはなし会	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感を大切にして、子供も大人も共に楽しむことができる絵本を選書している。 ・毎回必ず参加者みんなが声を出したり、手をたたいたり等一体感を味わえる参加型絵本を選書している。また手遊びやわらべ歌絵本を積極的に取り入れ、親子の触れ合いや文化の継承に繋がるようにしている。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 活動中は、参加者が確認できる場所に必ずスタッフを配置し、動向を注視し、必要のある場合には事前に声をかける等の方法で、事故発生を未然に防止する。

【健康管理】 参加者には入口にて検温を行う。また健康管理表の提出をお願いすることで、イベント実施後に感染症等の影響により何らかの対応を迫られた際には、速やかに参加者にメール等の方法により連絡が可能な環境を構築する。



●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
4/3	11:15~ 11:50	テーマ 「4月に読みたい本 - 春の絵本 -」 『どうぶつまぜこぜあそび』 他6冊 手遊び「キャベツのなかから」
7/3	11:15~ 11:50	テーマ 「7月に読みたい本 - 初夏の絵本 -」 『そうだソラダ』 他5冊 手遊び「さかながはねて」
8/7	11:15~ 11:50	テーマ 「8月に読みたい本 - 盛夏の絵本 -」 『ありとすいか』 他10冊 手遊び「かっぱかっぱ」
9/4	11:15~ 11:50	テーマ 「9月に読みたい本 - 初秋の絵本 -」 『くいしんぼうのおつきさま』 他7冊 手遊び「アジのひらき」
10/2	11:15~ 11:50	テーマ 「10月に読みたい本 - ハロウィンの絵本 -」 大型絵本『ハロウィンのかくれんぼ』 他7冊 手遊び・ペープサート 『ハロウィンおばけパーティー』
11/6	11:15~ 11:50	テーマ 「11月に読みたい本 - 晩秋の絵本 -」 『もみじのてがみ』 他4冊 パネルシアター「ぼっとなる木」 パネルシアター「とん汁」
12/4	11:15~ 11:50	テーマ 「12月に読みたい本 - クリスマスの絵本 -」 『サンタのいちねんとナカイのいちねん』 他7冊 パネルシアター「どうしてしろいの？」
1/8	11:15~ 11:50	テーマ 「1月に読みたい本 - お正月と冬の絵本 -」 『だいこんさんおふるにはいる』 他7冊
2/5	11:15~ 11:50	テーマ 「2月に読みたい本 - 冬の絵本 -」 『はっぱみかん』 他6冊 大型絵本『ねずみくんのチョコキ』
3/5	11:15~ 11:50	テーマ 「3月に読みたい本 - 初春の絵本 -」 大型絵本『キャベツくん』 他7冊

●活動の成果と課題

コロナ禍で、公共施設におけるおはなし会の中止が続く中、対面でのおはなし会を続けることで、子供たちが絵本、物語に触れる時間を確保し、絵本を介した親子のコミュニケーションの場を提供し、文字活字文化の普及・定着の一助を担ったと考えています。

子供たちの特性を考慮し、参加型絵本、手あそび等をプログラムに取り入れたことにより、45分以上という長時間にもかかわらず、子供たちが集中して絵本を見聞かしている姿を見て、参加された親御さんからも好評を頂いているところです。

開催場所が書店ということもあり、無料とはいえ公共施設等での宣伝が難しい点、固定ユーザーを獲得することが難しい点の2点が、課題といえます。



おはなし会の風景



手遊び さかながはねて

●団体概要

【設立年月】 2019年3月18日

【設立の経緯】 国内屈指の絵本専門店ブックハウスカフェにて絵本専門士ならではの「おはなし会」をすることで、絵本を通じた親子の触れ合いや絵本の魅力を伝えようと絵本専門士有志で絵本専門士ユニット Peek-a-boo を設立する。

【目的】 絵本専門士が絵本に関する普及活動を行うことにより、絵本専門士資格の社会的地位の向上と絵本文化の充実と推進を目的とする。

【構成】 絵本専門士 10名

考えよう、災害時のトイレ

株式会社 HAP

<https://www.toilet.or.jp/toilet-think/>



災害時のトイレ問題について子供たちに関心を持ってもらうために漫画をメインに動画やクイズで学べるコンテンツを制作しました。漫画は自分事として読み進めてもらうために、読者の選択に応じて展開が異なるように工夫しています。

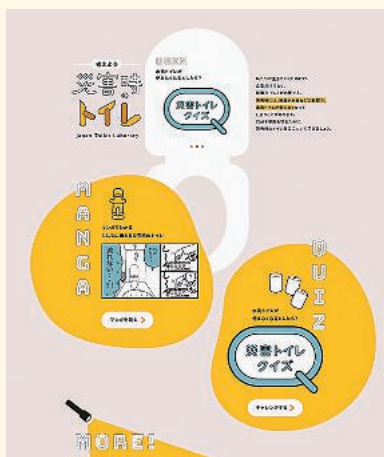


マンガコンテンツ



クイズコンテンツ

ホームページ
TOP 画面



展示会での活用



普段、当たり前のように使っている水洗トイレは、地震などの災害時には停電や断水の影響で使えなくなってしまうこともあります。トイレ問題は、健康被害や衛生環境の悪化など命にかかわる問題を引き起こします。しかし、災害時におけるトイレの問題は、解決に至らず繰り返されています。

本教材は、主に10代の学生を対象に、災害時のトイレ問題を認識し、家庭における災害時のトイレ対策など実際の防災活動につなげてもらうことを目的としています。

教材の内容は、地震の影響で自宅の水洗トイレが使えなくなった学生の姉弟が災害時のトイレ問題に立ち向かう様子を描いた漫画と自宅での備えを学ぶクイズなどで構成されています。

本教材は、主に10代の学生を対象としていますが、漫画で分かりやすい内容になっているので、地域における防災訓練などの防災活動でもご活用いただけるものとなっています。

活動を通してのSDGsへの取り組み

日本トイレ研究所では、子供たちにも災害時におけるトイレ問題の普及・啓発を実施し、将来的な防災活動の支援、ひいては地域全体の防災力向上に寄与することにより、持続可能な開発目標11【住み続けられるまちづくりを】に取り組んでいます。

子供向け教材開発・普及活動への申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金で何ができるの？

- ・開発したいアプリや Web ページを作成して、広く社会に提供することができます。企画立案は応募団体で行っていただきますが、実際のプログラミング等は外部に委託することもできます。
- ・開発した教材を普及するための費用も、助成期間中は利用することができます。助成期間が終了した後は、応募団体の責任で行っていただきます。

注意すべきポイント

開発する教材に使う素材の著作権、教材の中で扱われる写真と関連する権利、さらに、子供たちの個人情報の扱いに留意が必要です。

下記の例を参考にしてください。

- ・素材の提供者（原作者）には、譲渡できない著作権者人格権があります。作成した教材を今後、団体の判断で修正するためには、その著作権者人格権を行使しないという契約をしておく必要があります。
- ・教材の中に写真がある場合、そこに写っている人の許諾を得ておく必要があります（肖像権等）。
- ・自由に投稿できるようなページでは、子供たちがいろいろな個人情報を書き込んでしまう可能性があります。第三者に悪用されない仕組みが必要です。

過去に開発された教材は下記 URL よりご覧になれます。

https://yumekikin.niye.go.jp/jyosei_syoukai/kyouzai.html



申請の主な流れ

ID申請

- ・電子申請システムを初めて利用される場合は、事前に ID の申請・発行手続きが必要です。子どもゆめ基金ホームページから電子申請システムに入り、ID 申請を行ってください。
- ・ID の発行は自動ではなく、職員が手作業で行っているため、土日祝日は発行できません。
- ・ID 申請の集中が予想される締切り間近は ID の発行に時間がかかりますので、余裕をもって申請してください。

電子申請 (企画書)

- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。
- ・**応募締切：2022年11月2日(水) 17時締切**

一次審査

- ・審査委員会による**一次審査（書面審査）**を行い、一次採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2022年12月中（予定）】に通知します。

電子申請 (申請書)

- ・**※一次審査で採択された場合のみ**
- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。

二次審査

- ・審査委員会による**二次審査（申請書による書面審査及びプレゼンテーション審査）**を行い、採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2023年4月上旬（予定）】に通知します。

交付決定

- ・採否結果をメールにてお知らせします（郵送による通知は行いません）。交付決定通知書または不採択通知書は、電子申請システムにて確認・ダウンロードしてください。
- ・申請額に対して決定額が減額となっている場合や交付条件が附されている場合がありますので、交付決定通知書の内容をよくご確認ください。

日中韓子ども童話交流事業

日本・中国・韓国の子供たちが一堂に会し、各国の絵本・童話を通じて読書の楽しみを知るとともに、一緒に語り合い、協力して創作絵本を作成することで、3カ国の文化の特徴や共通性、違いなどを知り、相互に友情を深めあうことを趣旨としています。本事業は毎年度テーマを設定し、令和元年度は「園」をテーマに活動を行いました。なお、本事業は平成14年から実施され、平成23年からは3カ国による巡回開催により実施しています(令和2～4年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い延期)。

- 事業期間／例年8月17日～23日（6泊7日）
- 実施場所／日本、中国、韓国（3カ国による巡回開催）※令和元年度は中国・北京市、河北省承德市にて開催
- 参加者／小学生4～6年生 100名（各国33名、開催国34名）
過年度参加経験者 各国5～10名程度
- 主催／【日本】日中韓子ども童話交流事業実行委員会(子どもの未来を考える議員連盟、独立行政法人国立青少年教育振興機構)、【中国】中国関心下一代工作委員会、【韓国】ソウル教育大学
- 後援／中華人民共和国駐日本国大使館、駐日本国大韓民国大使館、文部科学省、外務省、国立国会図書館国際子ども図書館、公益財団法人文字・活字文化推進機構、公益社団法人全国学校図書館協議会
- プログラム／世界に1つだけの創作絵本作り、絵本読み聞かせ、見学、共同宿泊体験、絵本の発表会 等

【令和元年度の事業の様子】



万里の長城見学



テーマ「園」に沿った絵本を作成

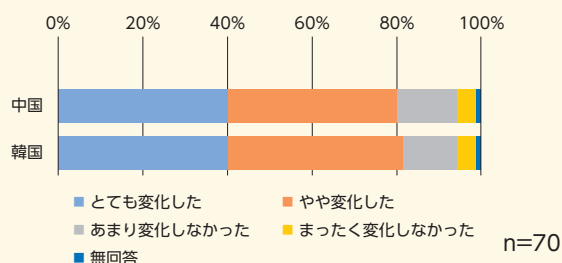
●参加者の声

- ・私は「別れは、次のもっと素晴らしい再会のためにある！」とたく信じています。10年後、私たちは参加経験者としてまた会いましょう！（中国の参加者）
- ・私は子ども童話交流に行ってから、分かったことがたくさんあります。一人ではできなかった事を友達と一緒にすると、楽しくて、簡単にやりとげることができるという事と「童話交流」は競争ではなく協同であるという事です。（韓国の参加者）
- ・中国での出会いは、ぼくの世界をぐんと広げてくれた。ぼくたちは、言葉や文化がちがうし、考え方もそれぞれだけど、ちゃんと分かり合うことができた。（日本の参加者）

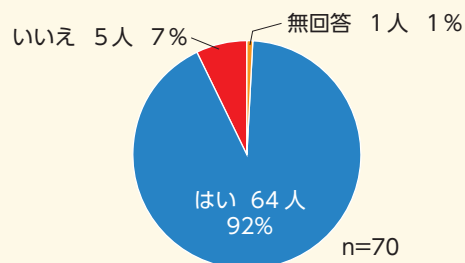
●事業参加後の変化

※平成23年～29年（26年を除く）の参加経験者（198人）のうち、12～21歳の70人が回答。

当事業参加前／後で中国・韓国に対する印象やイメージに変化はありましたか



この交流を機に国際交流に興味を持ちましたか



ミクロネシア諸島自然体験交流事業

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的として、平成14年度より実施しています(令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止、令和3年度はオンラインでの交流を実施)。

- 事業期間／受入：毎年6月下旬の約10日間
派遣：毎年7月下旬～8月下旬の約11日間
- 実施場所／受入：東京都ほか ※令和元年度は長野県・島根県・広島県にて開催
派遣：マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦(チューク州・ポンペイ州・コスラエ州のうち2州)・パラオ共和国
- 参加者／受入：10歳～14歳 マーシャル諸島共和国：24名、ミクロネシア連邦：48名、パラオ共和国：12名(累計：1,183名)
派遣：小学校5年生～中学校2年生 64名(累計：1,867名)
- 主催／独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援／外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦・パラオ共和国
- プログラム／受入：スポーツ交流、上野動物園見学、都内中学校訪問、国会議事堂見学、各国大使館訪問、地方施設での交流プログラム等
派遣：自然体験、無人島体験、スポーツ交流、マリアクティビティ、ホームステイ、合同学習成果発表会等

【受入の様子】



国会議事堂見学

【派遣の様子】



無人島体験

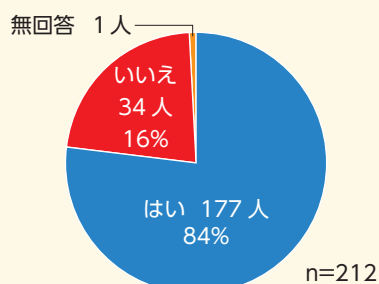
●参加者の声

- ・現地の人たちとともに行動をすることにより、いつもの自分だったらできないようなことに取り組むことができました。また、人種などというものはなく、人間としてかわりあい、改めて人の温かさというのが分かりました。
- ・私はこの事業に参加して、「ミクロネシア諸島の良さ」を知りました。現地の方々は優しくフレンドリーな方が多かったし、自然に恵まれていてとても良いなと思いました。
- ・日本と環境が違うので驚くことが多かったけど、水や食料の大切さを感じることができました。

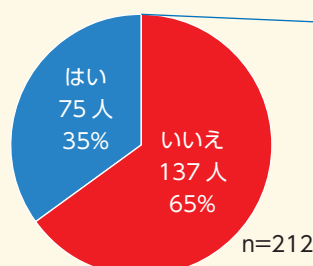
●事業参加後の変化

※平成23年～29年の参加経験者(380人)のうち、13～23歳の212人が回答。

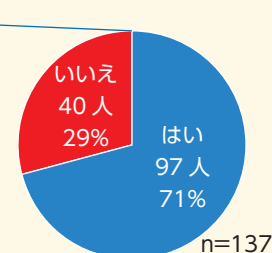
外国語の学習に力を入れるようになったか



海外留学をしたことがあるか
または、する予定があるか



今後留学してみたいと思うか



「体験の風をおこそう」運動[®]とは

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少してきている状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く発信し、社会全体で体験活動を推進していくことを目的とした運動です。

「体験の風をおこそう推進月間」事業に参加しませんか。

体験の風をおこそう推進月間事業

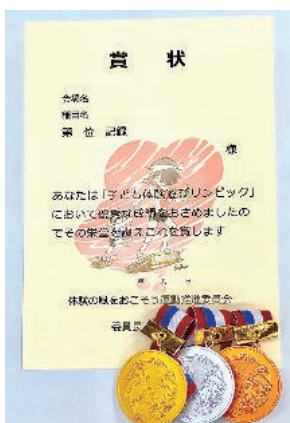
体験の風をおこそう運動推進委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（令和4年度は10月22日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充及びその社会的気運の醸成に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。登録は、「体験の風」HP（<https://taikennokaze.jp/download>）より、要項をご確認の上、HP内の専用webフォームからご登録いただくか、登録申込書に必要事項をご記入した後、月間登録先メール（taikennokaze-suishin@niye.go.jp）またはFAX（03-6407-7699）にてご提出ください。令和3年度は545団体に参加いただき、1,235事業の登録がありました。是非、ご登録ください。

子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

※子ども体験遊びリンピックの事業を10月（推進月間）に実施する参加団体には、松本零士氏（漫画家）がデザインしたメダルと賞状をお送りします。



ガイドブック「体験・遊びナビゲーター」



国立青少年教育振興機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

<https://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

「チラシ・ポスター」「のぼり旗」をご活用ください。

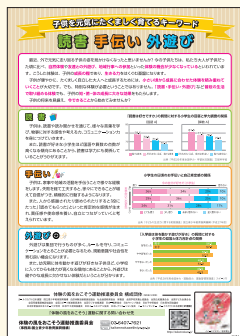
「体験の風をおこそう」運動の趣旨にご賛同いただける団体には、「チラシ・ポスター」「のぼり旗」を無料で配布しています。是非、事業での配布・掲示等にご活用ください。また、同運動のロゴマークも事業の開催案内に掲載する等ご活用いただいています。ご希望の場合は右ページ下部の「体験の風をおこそう運動推進委員会」までご連絡ください。



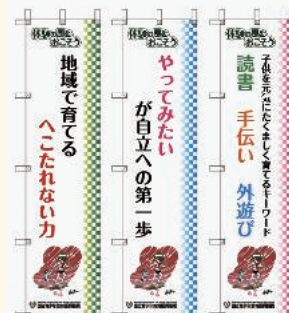
ロゴマーク



チラシ・ポスター



のぼり旗 ver.1



のぼり旗 ver.2

子供を元気にたくましく育てるキーワード

読書 手伝い 外遊び

最近、外で元気に走り回る子供の姿を見かけなくなっただと思いませんか？ 今の子供たちは、私たち大人が子供だった頃に比べ、**自然体験や友達との外遊び、地域行事への参加**といった**体験の機会が少なくなっている**といわれています。こうした体験は、子供の**成長の糧**であり、**生きる力**をはぐくむ基盤になります。

子供が健やかに、たくましく自立した大人へと成長するためには、**小さい頃から成長に合わせた体験を積み重ねていく**ことが大切です。でも、特別な体験が必要ということではありません。**「読書・手伝い・外遊び」**など**普段の生活で取り組める体験**でも、子供の**知・徳・体の成長に大きな効果**をもたらします。

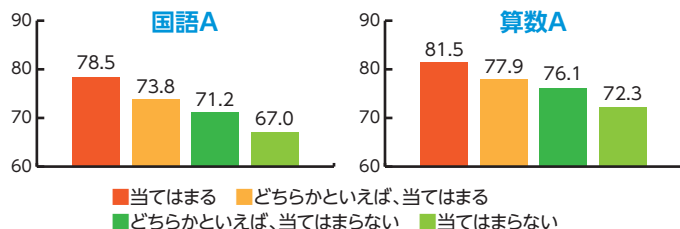
子供の将来を見据え、**今できることから始めてみませんか？**

読書

子供は、読書や読み聞かせを通じて、様々な言葉や物事に対する感性や考える力、コミュニケーション力を身につけていきます。

また、読書が好きな小学生ほど国語や算数の点数が高くなる傾向にあることから、読書は学力にも関係していることがうかがえます。

「読書は好きですか」の質問に対する小学生の回答と学力調査の関係



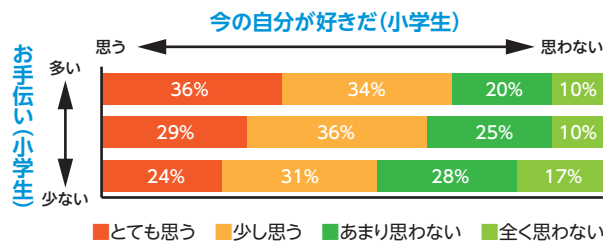
出典「平成29年度全国学力・学習状況調査」文部科学省

手伝い

子供は、家事や地域の活動を手伝うことで様々な経験をします。失敗を経て工夫すると、徐々にできるようになって自信が付き、積極的に行動するようになります。

また、人から感謝されたり褒められたりすると「役にたった」「認めてもらった」といった肯定的な感情が生まれ、責任感や使命感を養い、自立につながっていくと考えられています。

小学生の日頃のお手伝いと自己肯定感の関係



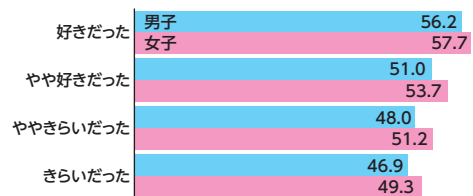
出典「子どもの生活力に関する実態調査」国立青少年教育振興機構(平成27年度)

外遊び

外遊びは集団で行うものが多く、ルールを守り、コミュニケーションをとることが必要となるため、規範意識や社会性を育む良い機会になります。

また、幼児期に体を動かす遊びが好きな子供ほど、小学校に入ってから体力が高くなる傾向にあることから、外遊びは健やかな成長に欠かせない体験だということが分かります。

「入学前は体を動かす遊びが好き」の質問に対する小学生の回答と体力合計点の関係



出典「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」スポーツ庁

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 修養団 全国学校栄養士協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本一輪車協会 日本キャンプ協会 日本青年団協議会 日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本ららばい協会 日本レクリエーション協会 ハーモニセンター ボーイスカウト日本連盟 [21団体]

「体験の風をおこそう」運動に関する問い合わせ先

体験の風をおこそう運動推進委員会
(事務局：国立青少年教育振興機構)

TEL 03-6407-7621 E-mail taikennokaze@niye.go.jp



<https://taikennokaze.jp/>



イメージイラスト：松本壽士

申請・採択状況

(3月31日現在)

令和4年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,221	2,497	1,078,838
子どもの読書活動	315	264	137,372
教材開発・普及活動	25	13	78,948
合計	3,561	2,774	1,295,158

令和3年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,615	2,930	1,153,040
子どもの読書活動	384	325	130,619
教材開発・普及活動	31	13	64,350
合計	4,030	3,268	1,348,009

令和4年度 都道府県別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	172	146
	読書活動	20	14
青森県	体験活動	29	22
	読書活動	2	2
岩手県	体験活動	28	25
	読書活動	1	1
宮城県	体験活動	34	25
	読書活動	4	4
秋田県	体験活動	19	15
	読書活動	5	4
山形県	体験活動	39	35
	読書活動	0	0
福島県	体験活動	23	20
	読書活動	4	4
茨城県	体験活動	47	42
	読書活動	0	0
栃木県	体験活動	54	44
	読書活動	9	9
群馬県	体験活動	32	23
	読書活動	2	2
埼玉県	体験活動	131	98
	読書活動	6	6
千葉県	体験活動	173	153
	読書活動	11	8
東京都	体験活動	536	389
	読書活動	61	52
神奈川県	体験活動	145	113
	読書活動	12	9
新潟県	体験活動	50	43
	読書活動	7	5
富山県	体験活動	29	26
	読書活動	0	0

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	39	31
	読書活動	0	0
福井県	体験活動	11	10
	読書活動	1	1
山梨県	体験活動	35	31
	読書活動	2	2
長野県	体験活動	50	42
	読書活動	2	2
岐阜県	体験活動	47	38
	読書活動	1	1
静岡県	体験活動	61	40
	読書活動	9	7
愛知県	体験活動	89	69
	読書活動	6	6
三重県	体験活動	26	22
	読書活動	0	0
滋賀県	体験活動	40	35
	読書活動	5	5
京都府	体験活動	113	89
	読書活動	6	6
大阪府	体験活動	267	215
	読書活動	33	27
兵庫県	体験活動	127	97
	読書活動	11	10
奈良県	体験活動	65	58
	読書活動	7	7
和歌山県	体験活動	22	13
	読書活動	5	5
鳥取県	体験活動	14	10
	読書活動	5	5
島根県	体験活動	13	11
	読書活動	3	3

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	50	39
	読書活動	2	0
広島県	体験活動	21	15
	読書活動	0	0
山口県	体験活動	28	20
	読書活動	6	6
徳島県	体験活動	34	28
	読書活動	1	1
香川県	体験活動	24	16
	読書活動	6	2
愛媛県	体験活動	69	51
	読書活動	3	3
高知県	体験活動	26	18
	読書活動	3	2
福岡県	体験活動	134	84
	読書活動	19	16
佐賀県	体験活動	12	6
	読書活動	14	12
長崎県	体験活動	20	17
	読書活動	1	1
熊本県	体験活動	26	19
	読書活動	10	8
大分県	体験活動	26	13
	読書活動	3	2
宮崎県	体験活動	36	33
	読書活動	1	1
鹿児島県	体験活動	119	84
	読書活動	6	3
沖縄県	体験活動	36	24
	読書活動	0	0
合計	体験活動	3,221	2,497
	読書活動	315	264

子どもゆめ基金へのご協力を (ご寄附のお願い)

子どもゆめ基金は、子供たちの健全育成を推進するために、青少年教育に関する団体が行う様々な体験活動や読書活動などへの支援を行い、令和3年に20周年を迎えました。

これまでに、約6万件の活動が行われ、1千万人を超える子供たちがその活動に参加しました。

この基金では、個人、団体、法人等から寄附等のご支援をいただき、全国各地で良質な体験活動の機会を充実させていくこととしております。

本基金の趣意をご理解いただき、皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

□座番号	00150-5-371382
□座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振込払込書の中に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱UFJ銀行 渋谷支店
□座番号	普通預金 3025103
□座名義	子どもゆめ基金

令和3年度にご寄附をいただいた皆様

～皆様のご支援に心から感謝を申し上げます～

(あいうえお順・敬称略)

井本 剛司	NPO 法人 ひねもす
植草 茂樹	NPO 法人 ホワイトベル
特定非営利活動法人 思いをつなぐ会	益戸 努
株式会社オリゲン	村井 悠治
関西電力株式会社	株式会社明和サービス
シンソー印刷株式会社	森田 代作・秀作・千枝子
高藤 佳明	ライフカード株式会社

このほかにも、たくさんの方々からのご支援をいただいております。

子どもゆめ基金ガイド2022

2022年8月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 0120-579081 (フリーダイヤル)

URL <https://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

全国の国立青少年教育施設のご案内

- 青少年交流の家
- 青少年自然の家
- オリピック記念青少年総合センター

- | | |
|--------------------|---------------|
| ① 大雪青少年交流の家 | ⑩ 曾爾青少年自然の家 |
| ② 日高青少年自然の家 | ⑪ 淡路青少年交流の家 |
| ③ 岩手山青少年交流の家 | ⑫ 吉備青少年自然の家 |
| ④ 花山青少年自然の家 | ⑬ 三瓶青少年交流の家 |
| ⑤ 磐梯青少年交流の家 | ⑭ 江田島青少年交流の家 |
| ⑥ 那須甲子青少年自然の家 | ⑮ 山口徳地青少年自然の家 |
| ⑦ オリピック記念青少年総合センター | ⑯ 大洲青少年交流の家 |
| ⑧ 赤城青少年交流の家 | ⑰ 室戸青少年自然の家 |
| ⑨ 信州高遠青少年自然の家 | ⑱ 夜須高原青少年自然の家 |
| ⑩ 妙高青少年自然の家 | ⑲ 諫早青少年自然の家 |
| ⑪ 立山青少年自然の家 | ⑳ 阿蘇青少年交流の家 |
| ⑫ 能登青少年交流の家 | ㉑ 大隅青少年自然の家 |
| ⑬ 若狭湾青少年自然の家 | ㉒ 沖縄青少年交流の家 |
| ⑭ 中央青少年交流の家 | |
| ⑮ 乗鞍青少年交流の家 | |



交通案内(機構本部)

- 電車 小田急線各駅停車 参宮橋駅下車 徒歩約7分
地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩約10分
- バス 京王バス 代々木5丁目バス停下車 徒歩約1分
- 車 首都高速4号線 代々木出入り口約100m
(大型バス) 新宿出入口 約2 km



National Institution For Youth Education
国立青少年教育振興機構



〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 TEL 03-3467-7201(代表) URL <https://www.niye.go.jp>

子どもゆめ基金についてのお問い合わせ

子どもゆめ基金部 助成課 TEL : 0120-579081

E-mail : yume@niye.go.jp URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>